

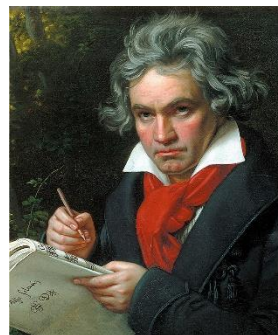


出雲芸術アカデミー音楽研究院
マエストロの特別主位研究講座 2021

「理論と実践」 ～丸山桂介先生をお迎えして～

こんな方にオススメです。

芸術文化・音楽に興味がある方、
クラシック音楽に携わる方、音楽家を志す方
～演奏家、ピアノ指導者、学校や音楽教室の先生、
クラシックを愛好する方、知的好奇心旺盛な方 etc...～



ベートーヴェン講解

ご案内

国際的なバッハ研究者であり、ヨーロッパ芸術の精神史、思想史をご専門とされる音楽学者・丸山桂介先生を出雲にお招きして特別集中講義を開催いたします。

連続講義を通じて、芸術の、音楽の本質、真髄に迫ります。本当に大切なものは何か。どのように生きるのか。知性と感性を磨く三日間。ご興味のある方はどなたでも受講できますので奮ってご参加ください。

出雲芸術アカデミー芸術監督・指揮者 中井章徳

「ベートーヴェン・省察」プロロゴス

ヴィンケルマンの時代に — ベートーヴェンが活動した時代にドイツ(文化圏)はなおギリシア・ローマの古典の光の中に在った。古典の芸術の意義をドイツに伝えた美術史家ヴィンケルマン。無論、ベートーヴェンは古典の研究を志したわけではなく、体系的に学術を学んだわけでもない。プラトンの、或いはカントの、宇宙の論理を説いた一冊の書を手にしてベートーヴェンには充分であった。だが視点を代えれば、それであるが故に問題の根は複雑な様相を呈して地中に深く網の目を張り巡らせることになる。

学問を「かじる」人間は学問のために生きる方途を選択しはしない。かじって、食した実から新たな学のコスモスを創出する — ベートーヴェンもそのような、新たな世界の創出を果たした人間であった。

一般的な目に映るのは、ウィーンで生き活動したのが音楽家ベートーヴェンであろうか。だが、鋭い感性に恵まれた人間がほぼ 20 年間を過ごし育ったボンこそがベートーヴェンの存在の基を成したのであって、ウィーンの歳月はボンの余韻であったというのが正しかろう。

ボンに流れ着いたフランス革命の難民。それは死を背負って歩む人間の、即ち社会の、歴史の、現実を映し出す鏡であった。

他方で、ゲーテやシラーの作品に詠われた美的世界は、理想国家の響きをベートーヴェンに伝えて充分であった。その現実と理想を両の手に、自らの思い描く在るべき国家の「建国」のためにこそ、ベートーヴェンは筆を走らせることになったのだと言わねばなるまい — ウィーンに移って十余年。貴族社会、宮廷に活動の場を求めながら、自らの生きる現実の世界を超え打倒するべく建国への意志を激しく燃焼させるという、外と内との完璧な矛盾の中で、しかしこれもほぼ完全な迄に無関係に、その矛盾に悩むこともなく現実の、いま在る世界を超える「英雄」を求めて筆を執ったのがベートーヴェンであった。

☆

哲学とドラマと詩は各々に異なる形姿を見せながら、ひとつの宇宙に三つの軌跡を記す三つの惑星に等しい。とは言えソフィア＝叡智と呼ばれる哲学は、神学に同じく天上界を説いて滅びることのない神聖国家を描くのに対して、ドラマ＝詩はときに、滅んで再び帰りはしない、永遠の彼方に刻まれた悲しみの歌を歌う。

『フィデリオ』は哲学の星を描き『アパッショナータ』は激しく燃える悲しみの軌道を駆け抜けて、夜空に一瞬の輝きを放って消える。

『英雄』は建国のために、また人間の榮譽のために命運を懸けた英雄達の生死のドラマを響かせた。その中の一片の情景を織り成して「葬送」は、新生のための死の何であるかを問うて死による滅亡ではなくして、死によってのみ実現され得る崇高という美の軌跡の在ることを人に説いて止むことがない。

☆

歴史の転換点と呼んで良いであろうか — 1750 年を、精神文化の領域における新生ドイツの誕生の年と言って差支えはなかろう。アリストテレスの『詩学』のドイツ語訳と、それに続くドラマの時代。ヴィンケルマンの余韻であろうか、重ねて成されたギリシア・ローマの古典の翻訳と芸術論の展開。

その時代に在ってモーツァルトが「ことば」に惹かれて傑出した舞台作品を世に問うたのと同様に、ベートーヴェンは『フィデリオ』で、また『アパッショナータ』で「ことば」＝詩の世界を歌い奏でた — 『アパッショナータ』をピアノのための単なる「ソナタ」としてではなく、ピアノで詠み語る「英雄叙事詩」として解析したらどうなるのか。恐らく、今日の世界で、誰も知らない、誰も聴いたことのないベートーヴェンの「音楽」がそこに姿を顕すことになるであろう。

「ベートーヴェンの音楽」ではなく、ベートーヴェンが傾聴した「ことば」の響きを追求して三日は過ぎることになるであろう。講義テーマのポイントは以下ようになる。

- 1) 音楽における「ことば」 — バッハ作品を例に
- 2) 『フィデリオ』が問うたもの
- 3) 「葬送」/第3の意味について
- 4) 『アパッショナータ』解析

記 丸山桂介

丸山桂介氏

1943 年、東京生まれ。ハンブルク（1982 年）、シュトゥットガルト/ライプツィヒ（1986/87 年）でバッハ、並びにベートーヴェン研究。元東京音楽大学講師。また、長年にわたり作陽音楽大学（現くらしき作陽大学音楽学部）で非常勤講師を務め、「芸術概論」「ピアノ音楽史」「管弦楽史」「オペラ史」の講義において多くの生徒を育てた。中世ヨーロッパ芸術の精神史を専門とし、J.S.バッハの国際的研究者として知られ、これまでに、テレビ、ラジオのクラシック番組の解説や、「音楽の友」「音楽現代」などの音楽雑誌で連載執筆。代表的著書に『バッハと教会』（音楽之友社）、『プロメテウスのシンフォニー ―精神史としてのベートーヴェン』『ウィーンのモーツァルト』『バッハ ロゴスの響き』『神こそわが王 ―精神史としてのバッハ』『バッハ「聖なるもの」の創造』『バッハインヴェンチオのコスモロジー』（以上、春秋社）などがある。



「理論」全7コマ連続講義 定員 30 名程度（現地受講）

— 時間割 —

	11月21日（日）	11月22日（月）	11月23日（火祝）
13:00		受付	
① 13:30 -15:40		2 限 バッハ作品の講解 「カンタータ」及び 「組曲」の奏法と歌い方①	5 限 バッハ作品の講解 「カンタータ」及び 「組曲」の奏法と歌い方②
15:40-16:00		休憩（20 分間）	
② 16:00 -18:10		3 限 フィデリオとメロドラマ①	6 限 フィデリオとメロドラマ②
18:10-19:00	18:30 受付	休憩（50 分間）	
③ 19:00 -21:10	1 限 アパッショナータと英雄 ― 分析と精神史的背景① ― ベートーヴェンを 御存知ですか	4 限 アパッショナータと英雄 ― 分析と精神史的背景② ― 「アパッショナータ・ ディドーの葬送」	7 限 アパッショナータと英雄 ― 分析と精神史的背景③ ― 「英雄・猛り立つアキレス」

① バッハ作品の講解「カンタータ」及び「組曲」の奏法と歌い方

..... 11 月 22 日（月）、23 日（火祝） 13:30-15:40

② フィデリオとメロドラマ

..... 11 月 22 日（月）、23 日（火祝） 16:00-18:10

③ アパッショナータと英雄 ― 分析と精神史的背景 ―

..... 11 月 21 日（日）、22 日（月）、23 日（火祝） 19:00-21:10

■会場■

出雲交流会館（出雲芸術アカデミー）2階 〒693-0002 出雲市今市町北本町 2-1-10 ※駐車場に限りがあります

■申込方法 お問合わせ先■

申込みフォーム、または、メールでお申し込みください。

◎申込みフォーム：下記アドレスまたは右記 QR コードよりお入りください
<https://forms.gle/P43qTLdMEXgNkC568>

◎メール：kimura.eri.iaa@gmail.com

電話：070-5300-0349

（担当 木村恵理/出雲芸術アカデミー音楽研究院研究主事）

次の内容をお知らせください

- ①お名前 ②お電話番号 ③一般または学生 ④希望講義（全日程／⑤、⑥、⑦）
- ⑤受講形態（日にち、コマごとの受講について、現地／録画）
→※録画受講の場合、資料の郵送希望の有／無（希望の場合はご住所）
- ⑥受講料支払い方法（振込／初回受講日支払い）



Q&A

- Q. ・日によって行くことができない時間帯があるのですが…
・日曜日と火曜日祝日は行けますが、月曜日に行くことができないコマがあるため、アーカイブ受講（録画受講）できますか？

A. ⇨ 都合のつく講義は現地で参加、そして都合のつかない講義をアーカイブ受講などチョイスが可能です。現地とアーカイブの両方を希望することもできます。申込時にお知らせください。

- Q. ・現地受講を申し込みます。もしも急用で遅刻や欠席になる場合、その講義を録画受講に変更できますか？その場合の資料もいただけますか？

A. ⇨ 申込後の変更も対応いたしますのでご連絡ください。

録画受講はこんな方におすすめです

●全日程の予定がつきにくい方 ●遠方にお住まいの方 ●感染症が気になる方

◎アーカイブ期間中は自分のペースで見ることができます（**アーカイブ視聴期間は 60 日間！**）

◎アプリをいれなくても、送られてきたメールの URL からご覧いただけます

※アーカイブ視聴は 11/24（水）以降、準備ができ次第メールでお知らせします

- Q. ・レッスン聴講はありますか？

A. ⇨ 今年は講義に重きをおいた時間割が組まれており、すべての器楽奏者、歌手に参考になる内容です。講義の中で実演をふまえたサンプル演奏を交えて進められるため、聴講はありません。

演奏作品 J.S.バッハ：カンタータ第 82 番"我は満ちたれり [Ich habe genug]" BWV82 ほか

演奏 トロンボーン／森山貴宏 チェロ／玉串直美 フルート／柳楽マリ子

- Q. ・集中講義期間中、会場での飲食はできますか？

A. ⇨ 会場内での食事はできません。ただし、講義中を含め、水分補給はしていただいてもかまいません。なお、講義の途中では換気を兼ねた小休憩をとります。

その他、ご不明な点があればおたずねください。